

人工透析部

1. 施設の整備状況

(1) 現状の概要

1) 設備

純水装置、透析液供給装置10人用 1 台
患者監視装置 7 台、個人用透析器 1 台
血漿交換装置 1 台

2) 人員構成

兼任医師 1 名（泌尿器科兼任）
兼任看護婦 1 名（ICUより派遣）

(2) 稼働状況、実績

月間のべ人数約60名、月・水・金稼働
木・土・祝祭日は急患のみ

2. 点検・評価（平成9年度～12年）

(1) 効率化

1) IT化

オーダーリングは、コンピューター化（物品）

2) 部門の統合・廃止

なし

3) 収益性

事務手続き簡略化にて収益増と思われる。

(2) 貢献度

1) 院内

慢性維持透析は、他科合併症の患者がほとんどであり、貢献度は非常に高い。また院内発生急性腎不全にも対応しており、貢献度は非常に高い。

2) 院外

他院における合併症患者治療目的であるため、貢献度は非常に高い。

3) 地域社会

同様に県内の透析患者に対する貢献度は非常に高い。

(3) 高度先進医療、医学の進歩への対応

新しい透析法、機器（ダイアライザー等）を整備している。

(4) 組織の柔軟性（人事交流）

他科からのニーズには最大限柔軟に対処しており、柔軟に対応している。

(5) 情報発信度

新治療薬等は、主治医に積極的に使用提言している。

(6) リスクマネジメント

マニュアルを作製し、事故のないよう心掛けています。

(7) 教育

適宜、スタッフを集め勉強会を開催。透析専門医の教育、学会認定医・指導医の育成を行っている。

(8) 研究

新しい透析療法、新薬等の有効性を常に考慮し、学会発表を行っている。

(9) 学会活動

全国規模の学会に積極的に参加し、発表を行っている。

3. 問題点とその対策

専従の臨床工学技士が配置されていないため、機器の故障時の対応に問題がある。早急に専門職の設置が必要である。

4. 施設の将来展望

専従の医師、臨床工学技士、看護婦の設置が必要である。